

事業報告書

2019年度（令和元年度）

2019年（令和元年）4月 1日から
2020年（令和2年）3月31日まで

滋賀県近江八幡市市井町177番地

学校法人 ヴォーリス学園

2019年度事業報告書

2019年度初め（5月1日調査）の園児・児童・生徒数は、高等学校1,145名、中学校428名、小学校56名、エデュケア事業（保育園・認定こども園）1,069名、合計2,698名でした（他に放課後児童クラブ4ヶ所計342名）。それが年度末には、高等学校1,114名、中学校425名、小学校56名、エデュケア事業1,081名（放課後児童クラブ4ヶ所計303名）となりました。

そして2020年度の園児・児童・生徒数は、高等学校1,183名、中学校415名、小学校40名、エデュケア事業1,093名、合計2,731名（放課後児童クラブ4ヶ所計357名）となり、「当面の予測」の上限を超えて新年度を迎えることができました。これは全教職員の精力的な募集活動によるものと評価されますが、加速度的に進行する少子化・人口減少、深刻な公財政の状況など、学園を取り巻く情勢は厳しく、楽観は許されません。

19年度の事業としては、「ふるたか虹のはし保育園開園」「高校国際コミュニケーション科定員増」「一柳満喜子没50年記念事業」「『ヴォーリズ等の教育事業100年小史』編纂事業」等が特筆されます。また厳しい情勢を切り開き、学園の中期展望を策定すべく、「フロンティアプロジェクト」を「ヴォーリズみらい構想プロジェクト」に移行させました。2019年1月より月1回のペースで「ヴォーリズみらい構想委員会」を開催し、「基本的な考え方を整理し、見えてきた課題ごとに、「浅小井校地・北之庄校地での施設整備・収益事業」「ヴォーリズ建築群保存活用事業」「中高施設整備事業」「エデュケア部門の事業」の4つのワーキングチームに分かれ、検討・作業を進めました。併せて、北之庄校地の「ヴォーリズの森」事業、「小学校ソフトランディングプロジェクト」も並行して進めています。

「ヴォーリズみらい構想」推進のために必要となる課題が二つあります。一つは学園の教育展望ときちんとリンクすること。各校園での教育づくりの議論を促すとともに、学園として『いのちを大切にす教育』推進プロジェクトチーム」を立ち上げました。もう一つは推進のための強力な学園組織体制の構築です。そのための検討も「学園組織体制検討会議」で始めました。

こうしたなか、年度終盤、「新型コロナウイルス感染症」の世界的大流行（パンデミック）という予期せぬ危機が襲ってきました。深刻な景気後退も危惧され、「ヴォーリズみらい構想」で模索している連携事業の話も進みにくい状況となりました。しかし学園としては、生徒・児童・園児のいのちと安全を第一に、堅実に教育・保育事業を継続しながら、「みらい」を構想する努力を怠ってはなりません。「コロナ後は景色が変わる」と言われます。粘り強く、一歩ずつ、「みらい」を切り開き、前進したいと思えます。

理事長 藤澤俊樹

I. 学校法人の概要

本学校法人はイエス・キリストを模範とし、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行い、自己統制力のある自由人、独立自主の創造力に富む人、知性豊かな国際人を育成することを目的としております。

この目的を達成するために設置された本学校法人ヴォーリズ学園の2019年度における概要は、以下のとおりであります。

1. 設置する学校等

近江兄弟社高等学校 全日課程 普通科・国際コミュニケーション科

近江兄弟社中学校

近江兄弟社小学校

近江兄弟社ひかり園

もりの風こども園

そらの鳥こども園

金田東保育園（本園・分園）

安土保育園（本園・分園）

ふるたか虹のはし保育園

安土こどもの家

守山児童クラブ室（物部・小津・玉津）

2. 沿革

- 1905年 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、滋賀県立商業学校英語教師となる。商業学校生徒を対象にバイブルクラス、YMCAを組織。吉田悦蔵ら同居。
- 1907年 八幡 YMCA 会館（現アンドリュース記念館）建設。悦蔵と共同生活。悦蔵、商業学校卒業。流暢な英語で答辞を述べた。ヴォーリズ、同校退職。八幡に留まる。
- 1909年 大津・米原に鉄道 YMCA 設立。
- 1917年 近江ミッション所有地を開放してプレイグラウンドとする。
- 1919年 メレル・ヴォーリズ、一柳満喜子と結婚。
- 1920年 プレイグラウンドに清友園と名付け、ヴォーリズ満喜子が園長となる。
- 1922年 清友園幼稚園開設。園長・ヴォーリズ満喜子。戦後、近江兄弟社幼稚園と改称。
- 1923年 米原シオン幼稚園開設。園長・吉田清野。42年閉鎖。吉田悦蔵著『近江の兄弟等』出版。跋文、賀川豊彦。
- 1930年 ヴォーリズ、Colorado College L.L.D（名誉法学博士号）授与さる。
- 1931年 ハイド一家の寄付により幼稚園舎（現ハイド記念館）、体育館（現教育会館）建設。
- 1933年 吉田悦蔵ら近江勤労女学校設立。35年、近江兄弟社女学校に改称。戦後、新制中・高等学校（近江兄弟社中・高等学校）になる。近江向上学園設立（女子従業員教育、学園長・佐藤安太郎、西村関一、吉田政次郎）。戦中、女子青年学校、戦後、近江兄弟社高等学校定時制部、78年廃部
- 1935年 幼稚園の分園事業として大林公衆浴場二階において、大林の幼児のために保健衛生を主とした生活訓練を開始、これを「大林子供の家」と称した。翌年、慈恩寺町に活動場所を移し、39年から本園の幼稚園に合流。このころまでに、堅田・今津・水口幼稚園、八日市託児所、近江家政塾、八幡英語学校、江西義塾、農村青年学校、清友園教育研究所等多様な教育事業展開。
- 1940年 近江兄弟社図書館開設（吉田悦蔵館長）。75年近江八幡市に移管。
- 1941年 ヴォーリズ帰化、一柳米来留と名のる。太平洋戦争始まる。
- 1942年 女学校長・吉田悦蔵召天。以後校長、高橋虔、檜山嘉蔵。
- 1942年 時局により向上学園閉鎖、近江兄弟社女子青年学校に（校長・村田幸一郎）。戦時中、一柳一家は軽井沢にて暮らす。メレルは宣教師らと教会・学校建築計画に余念なく、東京大学にも出講。満喜子は軽井沢幼稚園・啓明学園などの運営を委託される。戦後帰幡。
- 1947年～近江兄弟社小・中・高等学校・同定時制部を順次整備（一柳満喜子学園長）。
- 1950年 中高校舎建設、67年焼失。68年新校舎建設。2007年改築（現学園本館）。
- 1951年 学校法人近江兄弟社学園設立。初代理事長・一柳米来留、学園長・一柳満喜子。

- 1954年 一柳米来留理事長、藍綬褒章、58年近江八幡名誉市民、61年黄綬褒章受章。
- 1963年 一柳満喜子学園長、教育功労者として藍綬褒章受章。
「小中学校を廃止して高等学校の充実を計る」と発表したのが、反対運動で中止。
希望館建設、2010年改築（現希望館）。
- 1964年 財団法人近江兄弟社と経営分離。校名変更検討・保留。一柳米来留理事長召天。
- 1969年 一柳満喜子理事長・学園長召天。以後、**理事長**、尾崎政明、西川仲二、西村関一、山本肇、草間修二、西村与左衛門、山田眞、仁村昭司、道城献一、岩原侑、池田健夫。**学園長**、浦谷道三、尾崎政明、草間修二、大橋寛政、仁村昭司、道城献一、奥村直彦、大門義和、中島修、佐野安仁、道城献一、池田健夫。
- 1972年 学園創立50周年を記念して体育館建設（ヴォーリズ記念体育館）。高校海外研修旅行（韓国）開始、90年より分散型に変更。
- 1974年 株式会社近江兄弟社会社整理、75年より財団補助金廃止、私学助成制度開始。
- 1978年 高等学校定時制部廃止。
- 1979年 高校新校舎建設（現西館）、4学級制に対応。
- 1980年 中学校2学級制に。84年から3学級制に。
- 1983年 中高一貫コース開始、翌年、特進コース開設。93年コース制解消。
- 1988年 三輪英樹五輪出場。以後、伊藤みき、乾友紀子出場。
- 1991年 学園創立70周年を記念して新図書館棟建設（現捜信館）。
- 1992年 高校女子バレーボール部「春高バレー」に初出場。93年野球部が甲子園初出場。以後、全国大会出場クラブ多数。
- 1994年 北之庄校地取得、95年グラウンド造成（ヴォーリズ記念グラウンド）。
- 1997年 文化体育交流センター建設。
- 1998年 小学校2学級制にするも2002年中断。シャロン館建設（現エクステンションセンター）
- 2000年 ハイド記念館・教育会館が有形文化財に登録される。高校新校舎建設（現東館）。6学級制に対応。
- 2001年 高校に単位制課程を設置（希望館）。05年北館建設、単位制2学級化に対応。
- 2002年 近江兄弟社総合サービス有限会社設立（スクールバス、営繕、警備）。「21世紀グランドデザイン」策定。
- 2003年 幼稚園新園舎建設。こどもセンター設立。以後、保育園（2）、同分園（2）、認定こども園（2）、学童保育所（4）を順次開設。
- 2004年 第2次グランドデザイン。06年、第3次グランドデザイン。
- 2007年 学園本館建設、5階にヴォーリズ平和礼拝堂設置。中学校4学級制に。
- 2009年 「ヴォーリズ展 in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
- 2010年 第4次グランドデザイン。新希望館建設、ICC発足、翌年、国際コミュニケーション科認可。武道場建設。
- 2011年 浅小井校地取得、中高体育施設・小学校舎整備。
- 2014年 小学校を浅小井校地に移転。ヴォーリズ没後50年記念行事「ヴォーリズメモリアル in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
「ヴォーリズ建築を巡る韓国旅行」主催。
- 2015年 法人名を「学校法人ヴォーリズ学園」に変更（理事長・池田健夫、学園長・道城献一）。第5次グランドデザイン。
- 2016年 弓道場移転・完成記念式（3月28日）
メインアリーナ起工式（4月2日）
そらの鳥こども園起工式（8月29日）
第10回「いのちと平和の集い」開催（10月28日）
2018年度近江兄弟社小学校児童募集停止発表（12月）
そらの鳥こども園竣工式（3月26日）
- 2017年 そらの鳥こども園開園（4月1日）
メインアリーナ竣工式（4月6日）
サブアリーナ改修
ヴォーリズ記念アリーナグランドオープン祝賀会（9月18日）
- 2018年 「近江兄弟社こどもセンター」を「ヴォーリズ・エデュケアセンター」に変更
ヴォーリズコーチングアカデミー開設
ふるたか虹のはし保育園起工式（8月27日）
- 2019年 「第一次フロンティアプロジェクト」から「第二次フロンティアプロジェクト」

ヘヴォーリズムみらい構想準備会を立ち上げ、委員会スタート（1月23日）
 高校国際コミュニケーション科定員増認可（3月28日）
 ふるたか虹のはし保育園竣工式（3月30日）
 // 開園・入園式（4月6日）
 一柳満喜子没50周年記念事業実施（8月～11月）
 （記念誌作成・研修会・講演会・展示）
 学校法人関西学院と近江兄弟社グループが連携協定締結（12月4日）
 2020年 「ヴォーリズムみらい構想」第2段階へ（1月）
 各ワーキングチーム始動

3. 設置する学校の定員および生徒数の状況（2019年度私立学校調査等より）

校 園	定員数	生徒・児童・園児数
高等学校	1, 085名	1, 145名
中学校	456名	428名
小学校	(432名)	56名
こども園	565名	576名
保育園	474名	493名
学 童	370名	342名
合 計	3, 382名	3, 040名

4. 役員および教職員の概要等

①役員一覧（2019年5月1日現在）

理 事 長 藤澤俊樹
 常任理事 池田健夫 小野春男 松田 保 池田健一 中島 薫 小森康三
 安川千穂 山崎 直 奥 達夫
 理 事 山村 徹 上野昌志 蔭山孝夫 笈井昌彦 尾賀康裕
 監 事 小西 勉 川森勇次
 評議員 45名

②教職員数（2019年度私立学校調査等より）

法人本部	理事長、学園長、学園長代行、副学園長、専務理事・事務長、事務次長、専任職員6 エデュケアセンター事務部長、専任職員8					
校 園	校 長	副 校 長	専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員
高等学校	1	3	74	25	2	20
中学校	1	教頭含2	26	12	1	8
小学校	1	教頭1	6	6	0	6
こども園	園長3	副園長3	87	0	6	41
保育園	園長3	3	0	0	91	52
学 童					8	43

II. 各校園事業報告

1. 高等学校

2020年度県内高校入試で定員を確保したのは県内私学10校中、本校を含む4校だけとなりました。本校では国際コミュニケーションクラス(ICC)2クラス化に伴い定員が35名増加しました。総定員390名に対し445名の入学者を得られたことは評価したいと思います。この最大の要因は定員に対する専願率が90%を超えたこと、また公立普通科の定員減による影響で併願歩留まり率が8.5%(2018年度6.2%)と高まったことにあります。中でも学内・学外を合わせた推薦入学者は165名(定員の42.3%)と2018年度の113名(定員の31.8%)から大幅に増加しました。中学生から「専願で選ばれる魅力ある私立高校」であることが定員確保の必須条件であると確信します。

ICCは定員70名に対して64名の志願者に留まりましたが、募集活動においてICC2クラス化を前面に押し出しICCの特色ある教育活動とこれまでの実践を受験生に伝えました。これまでのICCの実績が受験生や保護者に評価されたこと、また入試制度として新たにI推薦を導入し、受験生が成績においてある程度の基準を認識し、安心して受験に臨めたことが受験生確保に繋がったと分析します。

単位制ヒューマンネイチャークラス(HNC)は定員80名に対して68名の入学者に留まりました。オープンキャンパス参加者は増加したものの、事前相談に繋がらないケースが増加しました。中学3年生の進路の選択肢に通信制高校が挙げられるようになり、この影響が少なからず出ていると思われます。

アーツサイエンスクラス(ASC)・グローバルクラス(GLC)ではクラブ活動の活性化により、近江兄弟社高校で学業とクラブ活動の両立を目指そうとする生徒が確実に増加してきています。特に成績上位者層の中に強化指定クラブの生徒が存在し、学校生活を牽引していく役割を果たしています。2020年度からの女子サッカー部創設も決定し、今後ますます学習とクラブの両立を目指す生徒の確保に努めたいと考えています。

2019年度は校務運営においてICC・ASC・GLC・HNCの4クラス制度の完成年度として教員の指導体制を大きく変革しました。運営委員会の充実をはかり、運営委員会で決定した内容を教職員会議で合意して行動するというスピード感を持った運営ができました。また校務運営を学年中心の横断型から4クラス(ICC・ASC・GLC・HNC)中心の学年を超えた縦型に変更しました。これまで学年主任を中心とした校務運営しか経験のない教員の意識を変えることが大きな課題でしたが、各クラス指導部長の奮闘もあり、スムーズなクラス運営がなされました。ただ細かな分掌分担、特に生徒指導の面において担当者が錯綜する事があり、2020年度分掌決定の課題とします。

4クラス制度完成年度として、各クラスの特色ある取り組みをクラス制度委員会を中心に推し進め、教育内容の充実をはかりました。ASCでは独自科目アーツサイエンスリーダーシップ(ASL)で生徒のサーバントリーダーシップ養成を図り、3年間を通して多くのレポート作成や発表の機会を設け、これらの集大成として海外研修旅行レポート集および卒業論文集を作成しました。GLCでは「Gチャレンジ」や「未来塾」の取り組みを2018年度までの到達点を踏まえさらに発展させました。自分の将来について考え、主体的に行動する力を伸張させ、学年を超えて生徒のGLCに対する帰属意識が高まりました。

授業改革ではアクティブラーニングが多くの授業で展開され、主体的に学ぶ姿勢や仲間と協働して探求する力が養われました。生徒授業アンケートにおいては授業に対する満足感は概ね高い結果を得ましたが、教員アンケートでは基礎学力の定着および進路選択での一般受験の減少等への懸念が表れています。また2019年度はエクステンションプログラムとして実施した土曜講座への参加者が2年生を中心に大きく減少しました。クラブ活動との兼ね合いが大きな要因と考えられますが、さらに大学入試対策講座としての魅力を高め、参加を促進したいと考えます。「本物との出会いプロジェクト」や「インターアクトクラブ」等、正課以外の活動の幅も拡がりました。これらエクステンションプログラムの充実は高大連携教育と合わせて今後も本校教育の大きな柱として位置づけます。

進路では2021年度大学入試より制度が大きく変わることが受験生心理に大きく影響し、受験生が指定校推薦入試に集中しました。例年は120名程度の指定校推薦希望者が186名となりましたが、大学合格件数では392件と前年274件と比して大きく増加しました。これは不透明な入試制度の中、指定校推薦入試合格者の増加とともに、生徒がこれまで以上にAO入試や一般入試で受験校を増加させたことが大きな要因となっています。また1・2年生は、大学共通テストでの英語外部試験や国語・数学での記述式問題の導入など情報収集に迫られる一年でした。いずれも見送りや延期となり、結果として教育現場は大きく混乱した形になりました。

クラブ活動では多くのクラブが近畿大会や全国大会に出場しました。女子バレー部は2018年度に引き続き春高出場を果たし、準優勝校に惜敗したものの、全国大会での存在感を十分にアピールしてくれました。またハンドボール部や卓球部も全国大会出場を果たしました。これに加え、水泳や馬術、スケート、英語ディベート等でも全国大会出場を果たしています。ただ2020年3月に開催予定であった全国選抜大会が新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止となり、ハンドボール部・卓球部の出場が叶えられなかった事は大変残念です。2018年度にクラブ退部者が増えて不信感を招いた反省を受け、2019年度は指導者と生徒・保護者とのコミュニケーションを密にするように改善し、退部者も随分と減少しました。また学習との両立を図るため、最終下校時間を19:30とし、スクールバス20:20便を夏以降廃止しました。クラブ活動は、学校への誇りや帰属意識を高める絶好の機会であり、引き続き活性化を図ります。

2018年度は37名の退学者があり、退学防止を高等学校の教育課題に掲げましたが、2019年度退学者も30名となりました。学年制の退学者は減少しましたが、単位制の退学者数が相変わらず多い状態が続いています。退学者数の多くは不登校による進路変更ですが、身近に通信制高校という選択肢が得られるようになったことが大きな要因となっています。本校を卒業したいという強い願いを持ちながらも卒業資格取得のためには進路変更をせざるを得ない事実を重く受け止め、2020年度より単位制を中心にNHK学園通信教育制度を取り入れた教育システムを導入します。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取り組みの影響も有り、極めて不透明な状況が予想されますが、ICTを用いた教育システムの構築など、「ピンチをチャンスに変える意欲」をもって数年先を見据えた研修に取り組み、高校教育の更なる推進を目指します。

2. 中学校

2019年度は「中学校教育改革」の2020年度、2021年度実施に向けての具体化を目標に、研究、検討を進めました。「カリキュラム」「ICT活用」「年間行事計画」「研修旅行」「制服改定」についてのプロジェクトチームをつくり取り組みました。また、「新学習指導要領」の2021年度実施に向け検討を進めました。Active Learningやグループ学習などに積極的に取り組み、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」を意識して授業に取り組みました。ICT機器の活用については、機器や環境の整備も進めることができ、授業での活用が広がりました。ICT教育の推進として、2020年度入学生から一人一台のタブレットを使っている授業実施に向け、研修や事例検討などの機会を多く持つことができました。また、英語教育では、4技能を重視した取り組みをし、GTECの活用もさらに進めることができました。英語暗唱大会では、1年生はスキット、2年生は暗唱、3年生はプレゼンテーションの形が定着し、それぞれの学年に応じたレベルの取り組みができました。

中高の水路を拡大の取り組みとして、内部進学生徒を対象に入学前プログラムの充実を中高教職員間で協議し進めました。

年2回の学習・生活アンケートや保護者アンケートの結果を踏まえて、授業改善や学習指導の向上を図ることができ、生徒状況の把握、事後の指導にも活用できました。

生徒募集については、Webによるイベント登録及び入試情報提供、入学試験願書出願も2年目となり、また今年度より写真票もWebでの提出としましたが、大きな混乱も無くスムーズに行うことができました。オープンキャンパス参加者数では、478名（前年度441名）模擬試験の参加者数は353名（前年度345名）と昨年度並みの参加数となりました。2019年度も専願を重視する入試を行い、自己推薦S型定員70名、A型定員を50名として募集活動を進めました。結果としてS型の受験者数が72名（昨年度71名）、A型の受験者数が30名（昨年度37名）となりました。近江兄弟社小学校からの内部進学者は9名でした。兄小生に中学校の施設を使って中学校の教職員が小学校の授業を行ったり、小学校の行事に中学生が参加するなど、小中の水路拡大も引き続き力を入れてきました。2019年度の募集活動の結果、第1学年の入学生は138名で、定員を充足することができませんでした。今後の募集活動のあり方の検討や本校の魅力のアピールの仕方を工夫するとともに、教育内容の充実をさらに進めていく必要性を感じ、次年度へ向けての検討課題とします。

3. 小学校

2019年度の児童数は3～6年生合わせて56名となりました。(転入2、転出2)

学童期の発達段階における基礎的・基本的な知識・技能を習得し、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力が身に付くように日々の学習活動を行いました。アクティブラーニングの視点からの学習活動を通して、主体的・協働的に学ぶ姿勢を育みました。

電子黒板やタブレットなどを活用し、ICT教育の推進に努めました。

近江兄弟社中学校への進学および進学後の充実した学校生活を見据え、基礎基本となる学力・学習態度を身に付けることをめざして取り組むとともに、日常の一斉授業だけでは基礎学力の定着が困難な児童に対して、補習授業を行いました。

月1回土曜日を登校日として、授業時間の確保に努めました。

児童各自が自分の目標を定め、目標達成に向けて努力を積み重ねることができる一つの方策として、「漢字検定」「算数検定」を各2回、「英検 Jr.検定」を1回実施しました。

聖書の教えを軸に自己肯定感を育み、命を大切にし、自ら生きる世界を愛する心を育てることをめざして宗教教育に取り組みました。また、学校行事に限らずランチや掃除や遊びなど日常の生活においても、異学年・異年齢集団での活動を取り入れ、コミュニケーション能力を育み、隣人愛の精神を培えるようにしました。

各行事を工夫して取り組みました。

紅組対白組の二色対抗の運動会でしたが、勝っても負けても仲間の頑張りを讃え合える「ノースサイドの精神」に満ちた学び多きものになりました。お手紙と花の種を付けて飛ばした「エコ風船」、三重桑名市・静岡県富士宮市・神奈川県の方からお手紙をいただき大いに励まされました。また、PTA種目は役員さんたちの企画・運営で大いに盛り上げていただきました。

「自己への挑戦、仲間と励まし合いながら全員165km完走」を目標に取り組んだ「びわ湖一周サイクリング」、保護者の皆さんやボランティアの皆さんにご協力を得て、無事全員完走を遂げることができました。

中学校の「花の日礼拝」には、卒業生がお花を届けてくれました。また、小学校「朗読会」には、中学生3名が英語朗読を披露してくれました。

2020年度は全校児童数4～6年生40名となりますが、建学の精神のもと、子どもたち一人ひとりを大切にし、最後の最後まで責任を持って取り組んでいく決意です。

4. ヴォーリズ・エデュケアセンター (vories EduCare Center)

2019年4月に開園したふるたか虹のはし保育園は予定していた園庭及び駐車場整備事業も予定通り完了し、見通しがよく安全な園児の生活環境が整いました。新規開園を支援するためにエデュケアセンター各園から異動した職員、旧ふるたか保育園から学園に入職した職員が園運営の軸となり、行政・学園・保護者の協力のもと、無事一年を終えることができました。

2019年10月より幼児教育・保育無償化が始まり、幼稚園、保育所(保育園)、認定こども園等を利用する3歳から5歳児クラスの子どもたち、住民税非課税世帯の0歳から2歳児クラスまでの子どもたちの保育料が無料となりました。制度の開始に伴い、複雑な事務処理や管理規程の変更等を要しましたが行政のサポートを受けながら各園とエデュケアセンター本部が一体となり混乱が生じることなく進めることができました。金田東保育園、安土保育園の施設整備が課題でありましたが、相次ぐ大型台風による被害が2園において生じました。単年度の予算内で修復できる範囲の被害であり、園運営が困難になるものではなかったものの、今後、施設整備が大きな課題であることが明確となりました。2019年度の事業計画に「職員の資質向上」「ヴォーリズ学園職員としての帰属意識を高める」こと、職員にとって「働きやすさとやりがいを持つ職場」となるよう、労働環境の整備を掲げました。一柳満喜子没後50年の記念事業に主体的に関わる職員も多く見られ、また、企画展を一つの研修の場として歴史に触れる機会を設けました。日常の保育活動に直結するものではありませんでしたが、園運営の理念に触れることができたのではないかと考えます。慢性的な保育士不足の中、大幅な労働環境の整備は難しい課題でしたが保育ICT化による事務作業の軽減や、行事の見直し等により少しずつ改善を図りました。今後の継続課題でもあります。放課後児童クラブの利用者が年々増加し、施設や指導員確保の課題が通年を通して生じました。行政から業務を委託(指定管理者)されていることから、独自の判断が難しい事柄も多く生じましたが粘り強く市町に回答を求め子ども達の環境整備に努めました。

Ⅲ. 財務報告（2019年度財務状況概要）

（1）資金収支計算書

学校法人の当該会計年度の諸活動に対する、すべての収入・支出の内容を明らかにするものです。以下に、主な科目についての経年比較資料を掲示いたします。

① 資金収入

(単位千円)

	2015	2016	2017	2018	2019
学生生徒納付金収入	1,225,643	1,165,875	1,238,645	1,206,703	1,151,434
手数料収入	32,151	34,345	32,247	32,527	32,921
寄付金収入	50,337	129,781	21,133	48,803	31,839
補助金収入	1,159,561	1,464,665	1,397,403	1,756,736	1,607,069
事業収入	99,346	108,304	112,018	109,236	119,056
雑収入	45,241	70,969	81,736	76,551	42,455
借入金等収入	147,300	883,000	17,000	582,400	0
前年度繰越支払資金	330,137	365,073	607,762	631,552	850,215
収入の部合計	3,076,148	4,667,683	3,869,638	4,192,147	4,201,104

② 資金支出

(単位千円)

	2015	2016	2017	2018	2019
人件費支出	1,611,279	1,702,615	1,869,574	1,904,102	1,995,722
経費支出	614,434	605,785	692,645	697,968	664,161
借入金利息支出	14,154	13,404	14,189	13,566	12,582
借入金返済支出	87,948	148,918	300,763	83,316	425,269
施設関係支出	165,386	1,311,034	228,529	577,371	28,954
設備関係支出	25,366	63,098	27,621	99,309	17,728
資産運用支出	150,761	150,090	100,000	50,000	50,000
翌年度繰越支払資金	365,073	607,762	631,552	850,215	907,831
支出の部合計	3,076,148	4,667,683	3,869,623	4,192,147	4,201,104

（2）事業活動収支計算書（2016年度から変更）

区分経理の考え方が取り入れられ、学校法人の活動内容ごとに収支状況を明らかにするものです。

(単位千円)

	2017	2018	2019
教育活動収入	2,844,663	2,872,041	2,963,175
教育活動支出	2,821,107	2,861,533	2,958,987
教育活動収支差額	23,555	10,507	4,188
教育活動外収入	17	40	176
教育活動外支出	14,189	13,566	12,582
教育活動外収支差額	△14,172	△13,525	△12,406
経常収支差額	9,382	△3,017	△8,218
特別収支差額	39,116	382,958	23,248
基本金組入前当年度収支差額	48,498	379,940	15,030
基本金組入額	△619,167	△191,757	△505,035
当年度収支差額	△568,134	188,183	△490,004

(3) 貸借対照表

年度末における資産、負債、純資産（基本金、繰越収支差額）の状態すなわち財政状態を表示するものです。
(単位千円)

	2017	2018	2019
固定資産	5,657,799	6,149,004	5,955,698
流動資産	898,243	1,372,868	1,086,164
資産の部合計	6,556,043	7,521,872	7,041,862
固定負債	1,259,020	1,426,546	1,301,054
流動負債	349,624	767,987	398,438
負債の部合計	1,608,645	2,194,534	1,699,493
基本金	7,856,047	8,047,805	8,552,840
繰越収支差額	△2,908,650	△2,720,466	△3,210,471
純資産の部合計	4,947,397	5,327,338	5,342,369
負債及び純資産の部合計	6,556,043	7,521,872	7,041,862